

- 1 教育事業名 平成30年度「美ら島サンゴ大作戦」
～ みつけよう！人とサンゴの過去・現在・未来 ～
- 2 ね ら い サンゴという題材をとおして多様な生物のつながりについて学び、身近な環境問題について関心を高めることで地域の一員として積極的に環境保全活動に取り組もうとする意欲を高める。
- 3 期 日 平成30年10月13日（土）～14日（日） 1泊2日
- 4 場 所 国立沖縄青少年交流の家
- 5 募集定員 24名
- 6 参加人数 24名
- 7 参加者内訳 小学5年生11名 小学6年生 8名
中学1年生 2名 中学2年生 2名 中学3年生 1名
(男子12名、女子12名)
- 8 講 師
- ・ 番田 武六氏（ダイビングショップ「Vibgyor」代表）
講話「サンゴの話」
 - ・ 米田 英明氏（琉球新報社 渡嘉敷村通信員）
実習「サンゴの恵みを探そう」
 - ・ 山本 広美氏（沖縄美ら島財団総合研究センター普及開発課）
実習「サンゴの秘密」
「慶良間海峡沿岸のサンゴ生態系の観察」
「サンゴのこれからと人間の生活」
 - ・ 比嘉 康裕氏、森 有紀子氏、金城 真里子氏、
池松 来氏、新垣 守弘氏
実習「スノーケリングの基礎と海中観察」
「慶良間海峡沿岸のサンゴ生態系の観察」
「サンゴのこれからと人間の生活」

9 実施プログラム

中潮 満潮9:38(187cm) 21:11(194cm) 干潮3:14(20cm) 15:21(69cm)

13日 (土)	11:00	12:00	13:45	15:10	15:30	17:00	17:30	19:00	21:00	21:20
	集合受付	フェリー	オープニング	作戦1～サンゴマスターになろう～				入浴	就寝準備	就寝
				実習①	移動	実習②	移動			
「スノーケリングの基礎と海中観察」	「サンゴの恵みを探そう」 「根元家石垣の見学」	「サンゴの話」								

大潮 満潮10:21(171cm) 21:42(180cm) 干潮3:51(31cm) 15:55(85cm)

14日 (日)	8:00	11:00	11:30	12:45	14:00	14:10	15:30	17:00		
	朝食	移動	作戦2～サンゴ博士になろう～		作戦3～サンゴ大作戦～		エンディング	移動	フェリー	解散式
			実習③	移動 昼食	実習④	実習④				
「慶良間海峡沿岸サンゴ生態系の観察」	「サンゴの秘密」	「サンゴのこれからと人間の生活」 「まとめと発表」								

10 事業の様子



スノーケリングの技能を正しく学ぶ



石垣から人とサンゴとの関わりを学ぶ



サンゴの生態について質問



砂浜からのエントリーでウォッチングへ



海の中で現在のサンゴの様子を観察



サンゴの恩恵を受けるウミガメを発見



山本広美氏の熱のこもった講義



サンゴの未来について話し合い



発表の準備



グループで発表



グループ発表に対する講師からのコメント



保護者の前で成果発表

11 エピソード（アンケート・参加者の感想）

- ・サンゴは世界の環境に役立っているけど人間の生活によって壊されている。これからはサンゴにとっていい環境作りをしないといけないことがわかった。
- ・サンゴの勉強は簡単だと思ったがとても奥が深く、人間の生活に深く関わることがわかった。
- ・人間の出しているゴミが気づかないうちにサンゴを傷つけていることがわかった。
- ・サンゴの習性やおもしろい形のサンゴなどたくさん学べた。
- ・サンゴの現在の状態を見ることができた。白化しているサンゴが少なかった。
- ・サンゴは昔の人は様々な用途で活用していることがわかった。
- ・世界のサンゴの種類やサンゴの恩恵を受けている生物の様子がわかった。
- ・サンゴは動物の仲間であることがわかった。
- ・沖縄の生活、文化は海に根ざしていることがわかった。
- ・サンゴは昔、骨壺や水瓶の材料になっていることがわかった。
- ・サンゴのおかげで海の中でたくさんの生物が恩恵を受けていることがわかった
- ・海底の砂が真っ白で、海水は透明で遠くまで見渡すことができ、気持ちよくスノーケリングやサンゴ観察ができた。
- ・スノーケリングをして今まで見たことのないサンゴを見ることができて良かった。

12 担当者所見

（1）成果

- ・スノーケリングの基礎的な技能を1日目と2日目のサンゴウォッチングの前に時間を取り、練習したことで、参加者にスノーケリングへの自信が生まれ、安全でゆとりあるサンゴウォッチングができた。
- ・講話を通して、生物としてのサンゴの生態を理解すると共に、人間の生活がサンゴに与える影響について考えを深めることができた。
- ・過去から現在へとサンゴと人間の生活について講話を聞き、ゴミ削減やマイカップの使用等、身近な生活の改善等、将来のことについて考えることができた。
- ・講話でプラスチックが海の生物に与える影響について学び、今後、プラスチックの使用について考えることができた
- ・スノーケリングをしながら実際に海の中でサンゴや生き物を観察することで、サンゴが多くの生き物を支える存在であることを理解することができた。
- ・渡嘉敷集落に点在する古い石垣の見学や講師の話を通して、昔、人間は海から多くの恩恵を受け、生活してきたことを学ぶことができた。

（2）課題

- ・講義や実習を通してサンゴについて知識を高め、今後、サンゴを守るためにゴミを減らすなど身近な改善を考えることはできたが、参加者同士の発表や意見交換するための時間やまとめをする時間の確保が必要である。
- ・年1回の開催でなく、夏と冬に開催し、異なる季節でサンゴの様子を見ることで保全に向けての活動への考えを深め、さらに学習効果も高まると考える。